

先進各地へ

産業建設視察先：白山市、輪島市
美しいまちづくり条例！

私達の政務調査は、北陸の小松空港へ飛び、ニューヨークヤンキースの看板選手であるゴジラ松井選手のふるさとの白山市で新市建設計画と美しいまちづくり条例について学んだ。

また輪島市にあるキリコ会館や輪島塗の視察、稲刈り後の千枚田など深まり行く能登半島の秋を堪能しながら政務調査をした。

当初予算四百四十七億のまち

朝七時十五分に秋田空港を発ったが、小松空港へは一時過ぎに到着した。訪問した白山市役所はすばらしく大きな役所だった。

村山議長が歓迎の挨拶をした後、議会議務局長が市と議

会の概要を説明した。白山市は平成十七年二月に一市二町五村の合併で誕生。人口十一万二千二百八十人。面積は石川県全域の十八%を占める県内最大の広さを誇るまち。議員の現数は三十四人、報酬は議長が五十六万、副議長四十七万、議員四十三万円。政務調査費は年額七十二万円、そのほかに常任委員研修費が年額十二万円が予算化されていた。



今年度の当初予算は一般会計四百四十七億四千万円。その他会計を含めた市の総予算額は八百九億五千五百万円だ。歳出の構成比は民生費が十九・三%と最も高く、次いで公債費の十七・四%だった。土木費は十六・六%だが、驚くことに農林水産費二・九%、商工費四・三%と低かった。

職員数は一般職が千六人で、削減目標数は二百五十人を計画している。人口百人に対し、〇・八九という職員数である。

すつきりした空間の通り

美しいまちづくり条例について、企画財政部地域振興課長が説明してくれた。

この条例は、住民自分たちの住む地域の将来像を描き、まちづくりのルールを決めて実現していく仕組みを定めたものである。

地域住民が、まちづくりの方向やルールを考え「美しいまちづくり計画」をつくり、この計画を実現するため、市長と「まちづくり協定」を結ぶ。

市民主体の活力あるまちづくりを推進し、「美しい住み

良い住環境を形成」することを目指している。

市の責務、市民の責務そして開発業者の責務など、それぞれの相互信頼に基づき「協働」で実施することがこの条例の良いところだ。また「白山市美しいまちづくり協議会」が、円滑かつ適性に推進するための組織として設置されている。

建設部都市計画課職員の場合、現在取り組みの中の「千代尼通り大野地区のまちづくり」を視察した。歩行者の安全を考えた歩道幅、支障となる電柱が取り払われ、空中で交差する電線も地中化され、また住宅の彩色も統一され、まさに美しいそしてすつきりした空間まちづくりだった。

金沢で角館納豆がメニューに

金沢市で「半兵衛」という店に立ち寄った。雰囲気もメニューも珍しい店だった。そこに何と角館納豆があった。聞いたら真正正銘の「角館納豆」だった。

輪島市を訪ねた。有名な輪島塗の本舗「稲忠」とお祭り館「キリコ会館」を視察した。能登の祭礼に用いられる切



子供の頃、右のバッターボックスについていた松井選手

子灯笼のことだ。大小二十本を超える灯笼が並び、能登の奇祭、祭り歳時記など能登の祭りを紹介している。祭りの豪快さ、スケールの大きさが何ともいえなかった。

稲刈り後の千枚田に立ち寄ったが、田植え後の水を張った千枚田の美しさにはかなわないと思った。金沢兼六公園では冬の風物詩「雪吊り作業」が始まっていた。高い樹木で作業する姿はまさに職人芸であった。歌舞伎十八番勸進帳の「安宅関」にもいくことができ、歴史観を深めることができた。いっそう見聞を広げる研修ができた。